



文部科学省

地域とともにある学校づくり推進フォーラム 2026 群馬

地域とともにある特別支援学校

～児童生徒・保護者が安心して地域で暮らすために～



栃木県立国分寺特別支援学校
校長 佐藤 彫子

栃木県下野市

学校

栃木県立 国分寺特別支援学校

学校運営協議会

指定・設置年 令和6年

委員構成

- 地域代表
- 保護者
- 地域学校協働活動推進員等
住民
学生
NPO代表
商工会代表
- 関係機関職員
- 有識者
- その他
(近隣交流学校長)
(行政関係者)

会議回数 年 4 回

地域学校協働活動

地域学校協働本部

なし

地域学校協働活動推進員等

1名

(うち学校運営協議会委員 名)

背景・取組概要

小学部・中学部・高等部のある知的障害の特別支援学校。小学部から高等部まで12年間在籍する児童生徒が半数近くいる。学校所在地は下野市だが、学区は下野市、小山市、野木町、上三川町と二市二町にまたがる。本校児童生徒が、地域社会の中で積極的に活動し、その一員として豊かに生きていくために学校運営協議会の取組をととして「生涯にわたる自立と社会参加の促進」をすすめたい。

特徴・ポイント

○運営協議会の委員は二市二町の政策課、企画課、子ども教育課等の行政関係者、近隣の学校間交流校関係者、高等部進路先の関係者、保護者、卒業生の保護者に本校元校長、大学教授、本校校長の計15名。

○初年度（令和6年）に本校の学校運営協議会が「めざすもの」と「テーマ」を決めた。

めざすもの

学 校：地域との協働による学校教育活動の充実
保護者：P T A 活動の充実や地域からの理解の深まり
地 域：地域の一員としての本校児童生徒への理解促進

運営協議会初年度のテーマ（3年、このテーマで）

- ①地域連携について
- ②防災教育について
- ③切れ目のない支援について

☆熟議をととして充実した取組・・・「地域をされいにし隊」、「地域公共施設での作品展」、「ヘアカット会」

○2年目（令和7年）拡大熟議の実施

・学校運営協議会をととして、もっと委員と教職員とが一緒になって学校づくりに参画してほしい。（委員にとっては）学校のことの、（教員にとっては）みんなで学校づくりに参画するということの理解促進、我が事意識の高揚を目指す。

・参加者は運営協議会委員＋教職員＋PTA本部役員

・熟議のテーマは運営協議会のテーマ①、②、③とし、事前のアンケートに基づいたグループ編成（1グループ6～7人計19グループ）をして、KJ法で実施。

・グループワークのファシリテーターは本校の中堅教員に任せ、ミドルリーダーとしての意識の高揚を図った。

・熟議で出た意見について校内委員会で整理し、学校運営協議会でさらに議論を深め、新たな取り組みへとつなげた。

☆新たに実施した取組・・・「段ボールベット体験の実施」、「ヘルプカード準備の推進」、「生涯学習につながる校外学習」

○3年目（令和8年）

・ブレインストーミング＋熟議（全教職員が小グループで自由に出し合った意見を学校運営協議会で熟議する）

成果・効果

学 校：地域との協働による学校教育活動の充実→児童生徒は「いつもやってもらっている」から「自分たちにもできることがある」「ありがとうと言ってもらえた」達成感、自己有用感、意欲の高まりが得られた。教職員は児童生徒の卒業後の生活を意識した指導実践、学習活動の見直しにつながった。

保護者：P T A 活動の充実や地域からの理解の深まり→地域の活動への参加を「はじめから諦めていた」→「行っているんだ」「行ける」「行ってみよう」に変化しはじめた。保護者が連れて行こうと思う、地域に対する安心感につながった。

地 域：地域の一員としての本校児童生徒への理解促進→障害のある方々への見方が変わる、かわり方がわかる。本校ボランティアとして、自身の活躍の場ができた。居場所が増えた→誰にとっても住みやすい街づくりにつながった。

- 1 学校概要
学校運営協議会を設置するにあたって
- 2 学校運営協議会 設置初年度の取組
- 3 2年目 拡大熟議の実施
拡大熟議の成果
- 4 まとめ



「地域をきれいにし隊」の活動から



ORIGAMIのまち かみのかわ
折り紙教室に参加した先輩の影響で、毎月制作する生徒作品

学校概要

とちぎけんりつ こくぶんじ とくべつしえんがっこう

栃木県立国分寺特別支援学校



学校の所在地は下野市

学区：下野市 小山市 上三川町 野木町

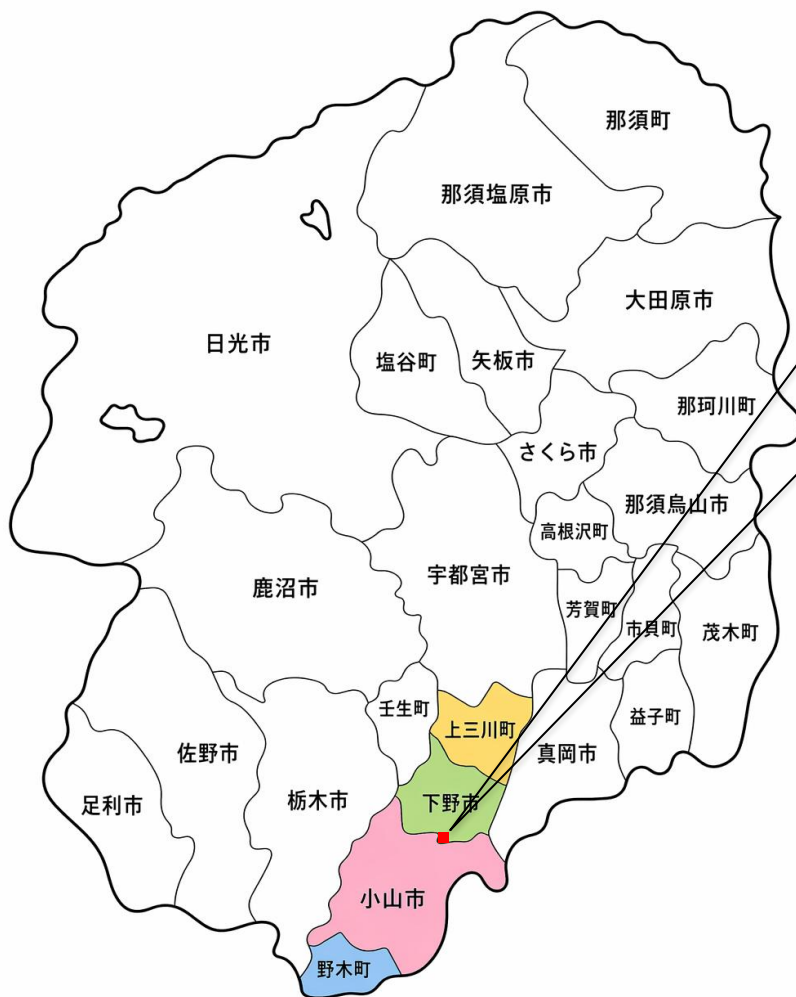
設置学部： 小学部 中学部 高等部

知的障害のある児童生徒が学ぶ学校

児童生徒数： 297名

教育目標

一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細やかな指導と必要な支援を行い、豊かな人間性を育み、地域社会の中でよりよく生きていく力を育成する



今までの地域連携の取組と学校の課題

地域貢献

- ・「地域をきれいにし隊」活動
- ・音楽部の演奏披露
- ・最寄り駅の「声かけサポート運動」への協力

授業支援・授業協力

- ・作業学習における近隣の企業・農家からの受注作業
- ・外部講師による音楽、国語の授業

・地域での児童生徒の居場所づくりをしたい→卒業後の居場所づくりにつなげたい

・学校安全、防災教育に力を入れたい

もっと地域の人たちと関わりのある学習をさせたい

もっと活動を広く地域の人たちで行いたい

交流及び共同学習

- ・近隣の保育園
- ・小、中、高等学校との学校間交流
- ・居住地区での居住地校交流

学校を知ってもらう活動

- ・児童生徒の作品展
- ・「地域連携だより」の自治会回覧
- ・学校ホームページでの学習活動の発信

もっと学校の教育活動のお手伝いをしてくれる人が欲しい

もっと学校に多くの人に関わってほしい

ボランティア受け入れ

- ・ボランティア養成講座の開催
- ・インターンシップの受け入れ



栃木県立国分寺特別支援学校学校運営協議会について

設置初年 令和6年

国分寺特別支援学校 学校運営協議会がめざすもの

本校児童生徒が、地域社会の中で積極的に活動し、その一員として豊かに生きていく
→生涯にわたる自立と社会参加の促進

めざすもの

学 校：地域との協働による**学校教育活動の充実**
保護者：**P T A 活動の充実**や地域からの**理解の深まり**
地 域：地域の一員としての**本校児童生徒への理解促進**

運営協議会初年度のテーマ

- ① 地域連携について
- ② 防災教育について
- ③ 切れ目のない支援について

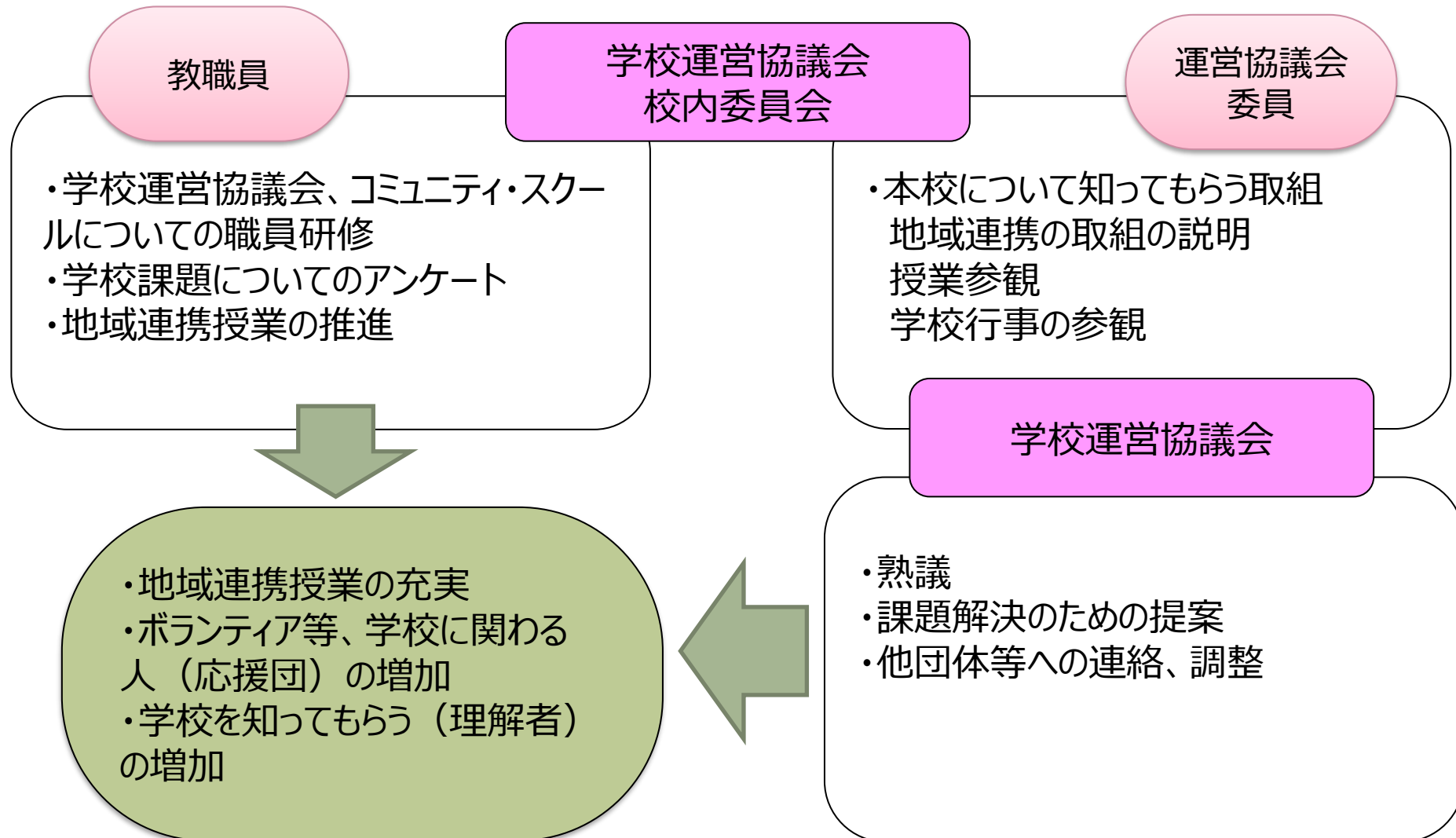


共生社会の実現へとつなげていきたい

委員：二市二町の政策課、企画課、子ども教育課等の行政関係者、近隣の学校間交流校関係者、高等部進路先の関係者、保護者、卒業生の保護者、本校元校長、大学教授、本校校長 計15名

栃木県立国分寺特別支援学校学校運営協議会 初年度

地域とともにある学校づくりとは？ 協働とは？ 学校運営協議会とは？



「地域をきれいにし隊」の活動

児童生徒が集会（特別活動）でマリーゴールドの種を植え、地域の花園の協力を得て、花を咲かせ、プランターを地域の公民館や駅に置かせてもらう

活動がマンネリ化

花の管理が意外と大変

学校運営協議会

うちの保育園にも置いて

〇〇は地植えができる場所がある

保護者に協力を呼びかけてみたら

もっと、花を育ててくれる人を募集してはどうか

- ・児童生徒の学習活動として実施可能か
- ・PTA活動として実施可能か
- ・新しい取組としてやってみるか

地域連携係、地域連携教員

- ・プランターの設置場所の増加、地植えの場所の提供
- ・保護者協力（お任せする）の設置場所（水やりや管理）の増加
- ・（種を植えた）ポットの管理協力（親子で花を育て隊）の取組

「地域をきれいにし隊」の活動



野木町役場の花植えは
PTAにお任せしよう

鉢を置く台があるとい
いのでは

木工班で作ろう



拡大熟議

2年目令和7年

今までの地域連携の取組について学校運営協議会での熟議を経て、より充実、広がりが見られた



もっと委員と教職員とが一緒になって学校づくりに参画してほしい

(委員にとっては) 学校についての理解促進

(教員にとっては) みんなで学校づくりに参画することの理解促進

我が事意識の高揚を目指す



学校運営協議会②
拡大熟議の実施

【概 要】 下記のメンバー構成による6～7名を一つのグループとし、下記テーマの一つについて意見交換を行った。19グループが各教室に分かれて熟議を行い、最終的にテーマごとに代表グループが、リモートで発表を行い、全体での共有を行った

テーマ ①「防災教育」について

②「地域連携」について

③「切れ目のない支援」について

上記の三つのテーマは、昨年度の学校運営協議会の「熟議」内容や今年度の学校の重点目標を踏まえて設定。

メンバー 学校運営協議会委員、本校PTA役員、本校教職員

拡大熟議

拡大熟議の手順

①自己紹介	5分	・手短かに自己紹介しあう。
②付せんの記入	10分	・テーマに対する意見を書く。 ・付せん(クリーム)1枚につき1つの意見にする。
③意見等紹介	12分	・一人ひとり、付せんに書いた内容を発表し、台紙に貼る。 ・1回の発言で1つの意見にするなど、説明を簡潔にする。
④仲間分け	5分	・類似の内容ごとに付せんを仲間分けし、台紙上に貼りなおす。
⑤見出し記入	5分	・仲間分けした内容ごとに見出しを考え、台紙に書く。
⑥話し合い	13分	・解決策を話し合い、付せん(ピンク)にまとめて台紙に貼る。
⑦評価・ふりかえり	5分	・見出しごとに整理した内容を基に話し合い、ワークシートにまとめる(班ごとに1枚)。
⑧発表・まとめ	10分	・代表の方がワークシートを基に発表する



・ファシリテーターはミドルリーダーの本校教員
・事前にアンケートで希望のテーマを確認



拡大熟議

拡大熟議、新たな取組を受けて

防災教育については喫緊の課題
すぐに取り組めることはないか

校内委員会

【学校】・地域の防災訓練への児童生徒・保護者の参加を通学圏すべての市町へ広げたい。

【自治体職員】

- ・本自治体防災訓練は大別すると下記の二つ。
 - 自治体主催の防災訓練
 - 地域コミュニティでの防災訓練
- ・本自治体住民へ案内しているが本校生の参加は少ない。学校を介して案内してほしい。

【自治体職員】

- ・本自治体では、障害を有する方を対象とし、別日で防災訓練を実施するための協議を始める準備がある。
- ・これまでは、本自治体と本校生・保護者とのつなぎ役を学校が担ってきた。今後、本自治体と保護者とをダイレクトにつなぐ窓口を保護者が担えないか？

【校長】

- ・本校には、居住地域を単位としたPTA支部会の組織がある。各PTA支部会代表が自治体との窓口になり得る。
- ・通学圏が広域のため、本校生・保護者と地域とをつなぐことに課題意識をもっていた。窓口は、課題改善へ向け、一歩前進となる。



【学識経験者】

- ・発災時、国特支校への避難は安心できるが、学校への移動を考えると現実避難は難しい。
- ・安心できる遠くの場所への避難ではなく、地域の身近な場所への避難が現実的である。そのため、地域とのつながりをいかに作るかが大切である。

【学識経験者】

- ・本校生が、他の自治体住民と同じ形で自治体の防災訓練へ参加するには、難しさがある。
- ・保護者は、周囲の目が気になり、参加を躊躇してしまう傾向がある。
- ・地域での防災訓練に安心感をもって参加できるため、ニーズを整理する必要がある。

【福祉事業所】

- ・本事業所では、毎年、避難訓練を行い、利用者は避難行動が定着している。しかし、利用者が居住地区で被災したときに、地域の避難所へ入れず、その玄関先で一夜を過ごした。居住地域での防災訓練への参加が重要である。

【地域住民】

- ・地域での防災訓練や避難所体験への参加を通して「慣れる」ことはできる。しかし、大切なことは、交流できる場や機会等の仕組みを地域に設け、日常から地域のつながりをいかに深められるかである。

【学校間交流校】

- ・今年度、地域のお祭りに学校として初参加したが、隣が国特生とPTAでの運営ブースであった。学校間交流に加え、良きつながりとなり、互いの学校・保護者に収穫がある。地域でのつながりの一つとなり得るのではないか。

防災教育の充実

防災教育については喫緊の課題
すぐに取り組めることはないか

校内委員会

意見・提案の整理

学校運営協議会③
熟議

課題
(取組) ①体験的な学習
②居住地での日々のつながり
③知識や準備（備蓄品など）

危機管理委員会
防災安全係

段ボールベット体験



地域の総合防災訓練へ
親子での参加呼びかけ



ヘルプカードの準備・作成の
呼びかけ

A photograph of a 'Help Card' (ヘルプカード) form from the City of Oyamashi (小山市). The form is titled 'あなたの家族が必読です。ヘルプカード' and includes fields for personal information, family members, and emergency contacts. It also has a section for 'お伝えしたいこと' (Things you want to tell us) and a checklist for '避難がよいや健康状態に関すること' (Things related to evacuation and health status).

避難所内テントの体験



防災教育の充実

次年度に向けた取組として

学校運営協議会④熟議

校内でできること

【本校職員】

・自治体の支援を受け、学校の体育館で福祉避難所体験の取組を行った学校を見学した。本校でも類似の取組を行いたい、ダンボールハウスと避難所テントが一緒にならないので地域に協力依頼をする必要がある。

【交流相手校】

・本園でも防災訓練を行っているが、園内での取組になりがちである。発災時は、園外への避難も想定され、防災の取組は、一つの機関内で完結させないことが大切。

【交流相手校】

・本校は福祉避難所体験の学習を行ったことはない。体験的な学習は、有益な学びであるが、一つの学校が単独実施するには課題や難しさがある。

【学識経験者】

・自治体へ協力を打診してはどうか。また、実践校の取組を精査し、実施に向けた課題の整理や準備につなげるべきである。

【保護者代表】

・まず、児童生徒の実態把握がとても大切。また、体験的な学びは有益であるが、一律の体験内容ではなく、実態に即した多様な体験的な学びを複数用意すべき。

【本校職員】

・福祉避難所体験を近隣校も巻き込んで地域防災の取組の一つとして実施できないか。例えば、本校で実施し、地域住民や近隣校へ案内を出し、希望者が来校し体験するという取組である。近隣校も含め、地域を一つの共同体と捉え、地域防災の推進として実施するのであれば自治体へ協力を依頼しやすい。また、本校へお越しいただけることは、本校の理解啓発を図る良机機会にもつながる。

校外でできること

【同窓会代表】

・災害時、避難所へ行っても「受け入れられるか」「孤立しないか」等の不安がある。また、非常食を食べられるかの心配もある。

【自治体職員】

・自主防災組織・コミュニティ推進協議会等を活用した活動等、身近で小規模な活動へ参加してはどうか。

【本校職員】

・地域防災に関する情報をいただければ学校から関係保護者へ周知できる。「近くでやっている」「参加してよい」がより伝わり、参加への心理的障壁が小さくなる。

【自治体職員】

・要望があれば検討できる。

【自治体職員】

・実務を所轄する担当課と学校窓口が協議を進めていく必要がある。

【自治体職員】

・「発災後、最初の3日間は各家庭備蓄(自助)」という前提をまずは確認。その後の共助(地域)、公助(行政)の避難所生活に向けては、家庭・学校・地域での学びや体験が役立つ。

【福祉事業所職員】

・本事業所では、様々な防災食の体験を行っている。防災食を実際に食べていくことは、とても大切。
・居住地で自治会、小学校区等の小さな単位で「顔を合わせる」「ともに楽しく参加する」機会を設け、互いに「顔の見える関係づくり」が大切である。

【本校職員】

・本校児童生徒・保護者が地域活動に参加するには、地域において本校の理解啓発をより推進することが大切。
・本校の認知度を高めるため、二市二町の広報や福祉関係のイベント等で学校紹介を掲載したい。

R8 学校重点目標への反映

重点目標：安全管理の徹底と実践的な防災・安全教育の強化

具体策

- ・実践的な防災学習（自分で自分の身を守るための学習）
- ・校内に模擬避難所を設営し、児童生徒の避難所体験学習、保護者、地域への開放
- ・非常食体験

危機管理委員会
防災安全係
PTA、ボランティア

より体験的な活動を
児童生徒だけでなく、保護者、地域の方とも 一緒に学ぶ、体験する活動を
学校だけで完結するのではなく、地域（行政）の協力を得ながら

下野市の防災課と
相談しよう

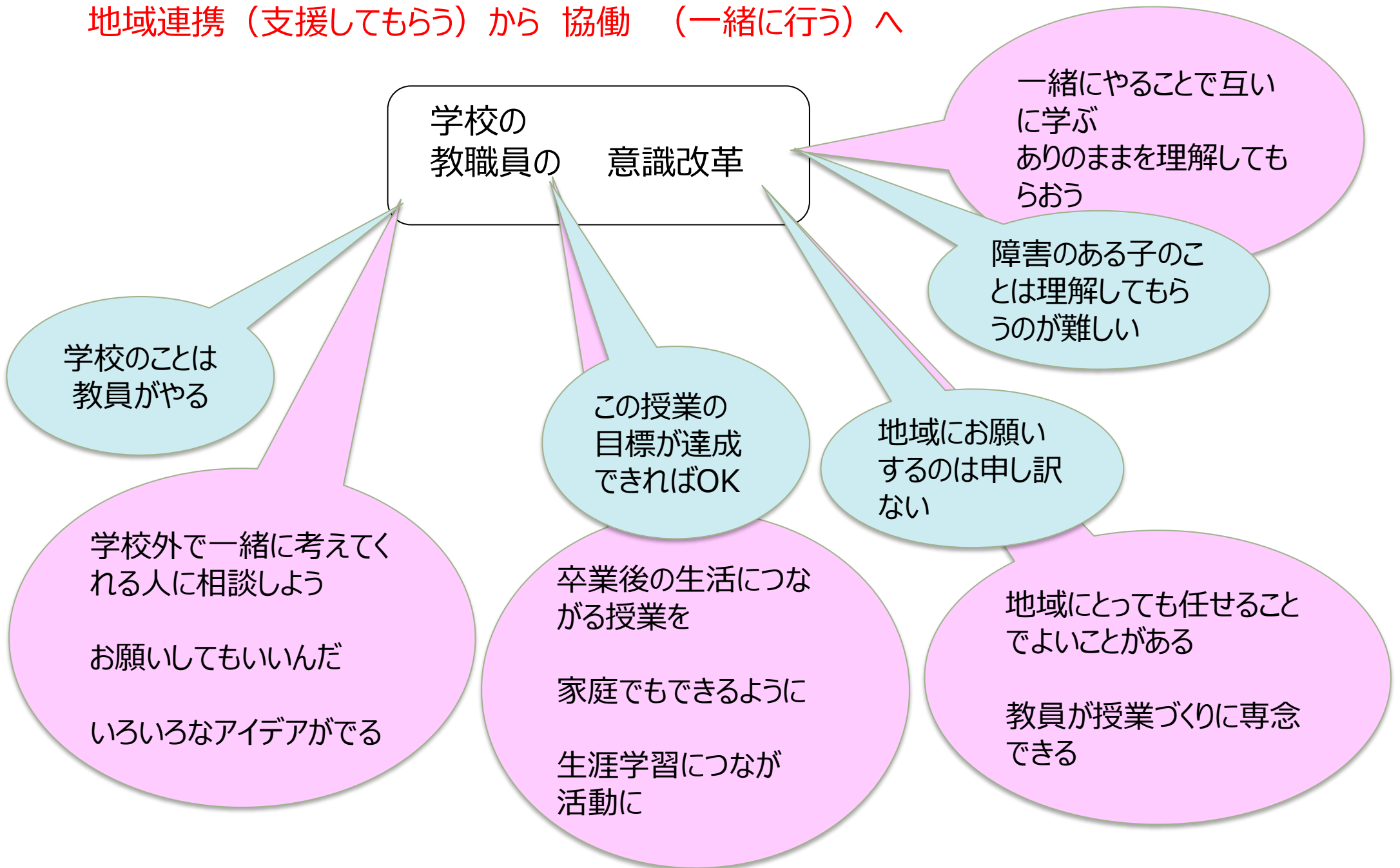
設営は保護者にも
手伝ってもらおう

設営に高等部生徒
も何か関われない
か

地域の方にも来て
もらいたい

まとめ

地域連携（支援してもらう）から 協働（一緒に行く）へ



まとめ

めざすもの

学 校：地域との協働による学校教育活動の充実

保護者：P T A 活動の充実や地域からの理解の深まり

地 域：地域の一員としての本校児童生徒への理解促進

学校

- ・児童生徒は「いつもやってもらっている」から「自分たちにもできることがある」
- ・「ありがとうと言ってもらえた」達成感、主体的に取り組む意欲の高まりが得られた
- ・教職員は児童生徒の地域、卒業後の生活を意識した指導実践、学習活動の見直しにつながった

保護者

地域の活動への参加を

- ・「はじめからあきらめていた」から「行っていんだ」「行ける」、「行ってみよう」に変化
- ・保護者が連れて行こうと思う意欲、地域に対する安心感の高まりにつながった

地域

- ・障害のある方々への見方が変わった、かかわり方がわかった
- ・本校ボランティアとして、自身の活躍の場ができた。居場所が増えた
- ・誰にとっても住みやすい街づくりにつながった

ご清聴ありがとうございました



シンボルツリー：なんじゃもんじゃ（ヒトツバタゴ）

